

震災後は原発事故避難者の流入もあり人口増 ただし医療提供では需給ギャップが深刻に

新村浩明

公益財団法人ときわ会常磐病院

いわき市内600人の 透析患者の集団移送を執行

東日本大震災の発生当時は、福島県いわき市にある現在所属するときわ会グループのいわき泌尿器科という透析と泌尿器診療を中心のクリニックに勤務していた。内シャント手術を終え医局で休んでいた時に大きな揺れを感じた。震災発生時、当クリニックでは人的被害はなかったものの、透析機器の故障と断水のため透析患者約50人の緊急回収を行った。幸いなことに停電は発生しなかった。

いわき市では当時、震災に引き続き発生した原発事故の風評被害を大きく受けた。3月14日に福島第1原発3号機が水素爆発した後、政府は原発から30km圏内に退避勧告を行った。いわき市の北部が原発より30kmの範囲にあったため、市全体が危険なエリアと考えた市民はパニックを起こし市街へと大挙して避難した。また、各種物流も完全にストップしてしまった。そのため食料、ガソリン、医薬品や医療材料などが全く手に入らない状況に陥った。

ときわ会グループでは約700

人の透析患者を有しており、高齢者の多い透析患者の多くは、専用の送迎車で病医院に通院し透析を行っていた。しかし原発事故以降物流が止まってしまったため、ガソリン不足で送迎が行えず、また透析に必要な医療材料が手に入らなくなってしまう。そのためいわき市では透析の続行に窮してしまい、ときわ会グループでは市内の他の透析施設に声をかけ透析患者の集団移送を執行した。

いわき市内の約600人の透析患者を受け入れていただいたのは、東京都、千葉県、新潟県の各医療機関であった。移送に際し、移送手段である大型バスの確保に行政の許可が下りず大変苦労した。透析患者やスタッフの宿泊場所は、各移送先の行政の御厚意で提供していただけた。この移送先での透析は、いわき市の断水や物流が回復するまでの約1カ月間行われた。

当グループでは東日本大震災での経験をもとに、災害に強い透析システム確保に注力している。具体的には、ときわ会グループの中核病院である常磐病院では断水が起きても透析が継続できるよう

に、透析用の専用地下水を整備した。いわき市内の透析施設同士の間連絡のために防災無線を整備したりしている。

若年層の流出が続く一方 原発事故避難者の流入で人口増

いわき市は、福島県の浜通りといわれる太平洋に面した地域の南端にあり、人口約33万人の街である。この人口は、震災と原発事故の影響で、1万5000人の減少となっており、このうち約5000人が18歳以下の若年者が占めており、若い世代の流出がより顕著となっている。福島にあっても太平洋に面しており、温暖な気候が特徴である。東日本大震災以降、原発事故の避難者の多くが、温暖で地理的つながりの強いいわき市に居を構えるようになり、その数は2万4000人ともいわれている。また、原発作業員や除染



作業員などの流入も含めると、約3万人が新たに流入していると考えられている。

いわき市で暮らしていると、その人口増を肌で感じることができ。朝夕の交通渋滞の悪化やスーパーのレジ待ちの長さ、飲食店での混雑ぶりは明らかに震災前にはなかった光景である。また不動産不足も顕著で、賃貸物件に空きは少なく、いわき市内の住宅地が全国の地価上昇率トップ10に名を連ねたりしている。こうした状況は、医療機関受診者数の増加においても例外ではない。常磐病院でも混雑は顕著で、震災以前と比べて長くなった外来の待ち時間のため、受診者の皆様に大変ご迷惑をおかけしている。

震災の年は、原発事故の影響もあり、市外へと流出した医師や看護師が多かったようである。これは一時的であつたようである。最近の福島県の統計によると、震災前と比較し現在の勤務医師数はほぼ同数で、看護師は増加している(勤務医師数…2011年3月1日256人↓15年12月1日262人。看護師数…11年3月1日2495人↓16年1月1日

2586人)。それでも震災以後、いわき市では避難者や原発従事者の増加で医療需要が増加しており、需要と供給がマッチしていない状況である。実際、患者数の増加は、救急搬送数の増加という形で現れ、10年の救急出場件数が1万2142件に対し、11年は1万3305件、15年は1万3289件と震災後はおおむね1000件の増となっている。この医療需要の増加が、ただでさえ貧弱ないわき市の医療機関を直撃している。

先端医療の提供と救急・専門科の拡充を急ぐ

こうしたいわき市の医療需要の増加に対し、常磐病院として以下の3つの面で地域医療を支えていきたいと考えている。

1)最先端の医療の提供

当院の人工透析センターでは、全自動透析装置やオンラインHDを導入し、より安全でより合併症を低減させる透析を試みている。また、腹膜透析や腎移植もっており、血液透析の要であるバスカテーテル治療も豊富に行ってい

る。泌尿器科部門では、ダヴィンチシステムによるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術や腎部分切除を行っている。その他の泌尿器悪性腫瘍手術においても、腹腔鏡下手術を導入している。また尿失禁や臓器脱などの女性泌尿器も専門外来を開設し、専門性の高い手術を導入している。

2)救急医療の拡充

当院では、15年4月より新たに救急の専門医1人に来ていただいた。これにより救急医療を少しでも拡充し、いわき市の救急医療に少しでも貢献できるように努めている。しかしまだまだ医師不足、看護師不足のため、思うような救急医療ができていないのが現状である。

3)専門科の拡充

当院では泌尿器科と腎不全診療を中心に診療を行ってきたが、いわき市でさまざまな診療科が不足しているため、診療科の拡充を行っている。また診療科の幅が増えることよって救急診療も充実する。医師確保はどの病院でも苦労していることであるが、ときわ会グループではどこにも負けない医師へのおもてなしを自負してい

る。その一端が、職員専用の温泉施設や医師の個室医局の設置である。これが功を奏したかわからないが、16年4月より4人の医師に常磐病院で勤務していただく予定である。

このように震災後のいわき市では人口増のための医療需要が大幅に増加しているにもかかわらず、医療スタッフの不足が顕著である。ときわ会グループでは、さまざまな取り組みを通し医療スタッフを確保し地域医療の充実に貢献したいと考えている。しかしいわき市内のスタッフの取り合いでは、いわき市の医療レベルの向上にならないだけでなく、医療機関の衰退も招きかねない。そのためときわ会グループは全国から注目される医療グループとなり、市外からの医療スタッフが来てくれるよううめざしたいと考えている。

DATA 公益財団法人ときわ会常磐病院

〒972-8322 福島県いわき市常磐上湯長谷町上ノ台57
電話:0246-43-4175 URL:http://www.tokiwa.or.jp